



Title	吐魯番出土文物研究会会報 第106号
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1995, 106, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/78917">https://doi.org/10.18910/78917</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 吐魯番出土文物研究会会報

第106号

1995年8月1日

吐魯番出土文物研究会

## ■ 目 次 ■

第7回吐魯番出土文物研究会大会のご案内	1
〈新著紹介Ⅱ〉侯 煤「高昌建昌六年(560)麹淳墓表考補」／孟憲実「吐魯番出土張行倫墓志考説」	2
〈紹介〉『吐魯番出土文書』図版叢文対照本・第2冊	4
〈会員の研究成果(1994年8月～1995年7月)〉	4
〈『吐魯番出土文物研究会会報』(第102号～第106号)総目次〉	6

## 第7回吐魯番出土文物研究会大会のご案内

昨年に引き続き今年も吐魯番出土文物研究会の大会を開催いたします。今回は第7回大会となります、下記のように、会員による研究発表のほかに、新しい試みとして若手の学徒による話題提供やミニ・シンポジウムを企画いたしました。また龍谷大学大宮図書館における大谷文書の閲覧も予定しております。

### 【記】

期間：7月31日(月)～8月2日(水)／2泊3日

宿舎：本願寺門徒会館／京都市下京区花屋町通堀川西入ル・TEL 075(361)4436

集合：7月31日午後5時・本願寺門徒会館

日程：7月31日夜 顔合わせと日程の確認／今後の研究会の活動予定と会報の発行予定について  
8月1日午前・午後 話題提供・研究発表(会場：龍谷大学文学部棟)

夜懇親会(会場未定)

8月2日午前 ミニ・シンポジウム(会場：龍谷大学文学部棟)

午後 大谷文書閲覧(会場：龍谷大学大宮図書館)

[話題提供(発表20分・質疑10分)／研究発表(発表45分・質疑30分)]  
(午前の部)

話題提供(Ⅰ)

竹内 智子

話題提供(Ⅱ)

伊藤 敏雄

旅順・新疆旅行報告（その1）

片山 章雄

（午後の部）

敦煌祁家湾西晋十六国墓とその出土品にみる二、三の特徴

井上 徳子

唐西州文書にみえる「×頭」について

－その統一的理解をめざして－

關尾 史郎

唐西州における遞送体制について

荒川 正晴

[ミニ・シンポジウム]

麹氏高昌国

－その独立国家としての性格をめぐって－

浅田かおり

麹氏高昌国末期の外交から

本間 寛之

コメント（I）

－北アジア史研究の立場から－

北條 祐英

コメント（II）

－中央アジア史研究の立場から－

白須 淨眞

（以上）

## ■新著紹介 II

◆侯 燦「高昌建昌六年（560）麹惇墓表考補」

（『西域研究』1993年第4期 73～76）

◆孟憲実「吐魯番出土張行倫墓志考読」

（『新疆師範大學學報』1993年第2期 67～73）

いずれも、新疆師範大学のスタッフ（当時）によるトウルファン出土墓志に対する個別的で詳細な分析。

前者が取り上げたのは、1950年代に存在が報告されながら、その後所在が不明だった墓志で、1990

年代に入ってからようやく写真が公表されたもの（北京図書館現蔵）。著者は釈文を提示しつつ、墓主の麹惇とその官歴に見える官職を中心に検討を試みている。

著者はまず官歴から、麹惇が王室麹氏の一員であり、年代からして「麹斌造寺碑」（555年）に見えている「廣威將軍・綰曹郎中麹」こそ麹惇にほかならないとする。ついで官職の検討を行なうが、墓志に記載されている麹惇の官歴は、①長史・廣威將軍・領兵部事→②横截令→③宿衛事→④吏部郎中・宿衛事→⑤綰曹郎中→⑥建威將軍・綰曹郎中→⑦鎮遠將軍・都郎中（贈官）であり（①と②の中間に「□武城縣」の4文字があるが、これは解釈を保留したい）、建威將軍に昇進するまでは一貫して廣威將軍だったとすれば、⑤が「廣威將軍・綰曹郎中麹」に一致するわけである。しかし著者によれば、官職が長史→県令→郎中→綰曹郎中と上昇するにもかかわらず、將軍号はこの間上昇せず、綰曹郎中に昇任後ようやく廣威から建威に移るのみで、最後までバランスを欠いたままである。また綰曹郎中の上位にさらに都郎中なる名誉職的な官職があったことや、武城・横截両県が既に設置されていたことなどを確認している。

「麹斌造寺碑」に登場しているか否かはともかく、麹惇が王室麹氏の一員であることは著者の指摘のごとくであろう。また官歴や官職に対する著者の見解もおおむね首肯できよう（著者の見解の前提になっているとおぼしき自身の官制研究に、検討の余地があることはおくとしてだが）。しかし問題とすべき点はほかにもある。例えば、横截令について「出爲」とあるのに対し、次の宿衛事について「入補」とあるのはどう解釈したらよいのだろうか。太守も県令も中央官が兼任する、つまりは遙任というものが、高昌国における通例だったからである。横截県は著者もいうように東北方面の要衝だったので、特例として実際に赴任したのであろうか。あるいはこの場合、「出爲」と「入補」というのは、中央官制における外官と内官の区別を示しているのあろうか。疑問は尽きない。

一方後者が取り上げているのは、72TAM191から出土した同じ張行倫にまつわる2点の墓志である。そもそも一人の墓主に複数の墓志が作成されるということ自体、稀有の例である。

著者はまず「開元七年八月五日」の紀年を有する墓志（72TAM194:1）と「開元八年八月廿八日」の紀年を有する墓志（72TAM194:2）の内容を丁寧に比較し、前者の紀年に誤りがあること（死亡が8月28日で、埋葬が9月5日なので、前者は9月を8月に誤った可能性あり）、前者の墓主の姓名記載が不完全であること、および墓主の曾祖・祖・父の高昌国時代の官歴が、前者では簡略に過ぎる（祖については前者が誤りとする）ことなどを根拠にし、前者は早急に作成されたがゆえに誤脱が多く、そのため後者が急遽あらたに作成されたと判断する。ついで墓志の内容について検討し、最後に両者の釈文を掲げている。

2点の墓志の相互関係に関する著者の解釈は妥当と思われる所以、ここでは墓志の内容に関する著者の検討を紹介しておきたい。著者は墓主の父の高昌国時代の官職「太教學博士」と、墓主自身の「版授」について検討を試みているが、このうち「太教學博士」について、他の墓碑史料に見えてくる「學博士」や『魏書』の「博士」、さらには墓主の祖が歴任した「通事教郎」などと同類の官職であって、高昌国でも学官制度が確立していたが、その品階はきわめて低かったとする。最後の点については、就官者の唐西州時代以後の官職を追跡することを通じての成果で説得力がある。ただしこの「太教學博士」も「學博士」も、唐西州時代に作成された墓志にしか確認できず、はたして「博士」とは別にこれらの官職が実在していたのであろうか、という疑問がのこる。また「通事教郎」も同類の官職とし、祖と父の2代にわたってかかる官職を歴任するということは、当時の学術のあり方を反映しているとまで著者はいうが、この官職は前者の墓志では「門下司馬」となっており、こちらが誤りで「通事教郎」が正しいと断言してしまってよいのだろうか。「門下司馬」が正しいという根拠もないが（むしろ誤りである可能性が高いのだが）、中国王朝でも見られない官職名を直ちに実在した

と認め、さらには職掌まで云々するのには、やはり躊躇を覚えるのである。

(關尾)

### ■紹 介：『吐魯番出土文書』図版釈文対照本・第2冊

本年5月に北京を訪れた際、中国文物研究所の王素先生より、表題の対照本第2冊を恵与されたので、この余白を借りて紹介しておきたい。第2冊は第1冊と同じく、文物出版社発行・精装・B4版で、奥付は1994年9月となっているが、なお書店の店頭にはないもようである。目次20頁、カラー図版2頁に続き、本文に相当する対照部分が350頁ほどである。第1冊より薄くなっているが、定価は400元と2倍以上になっている。

第2冊に収録されているのは、麹氏高昌国時代から唐西州時代にまたがる墓から出土した文書で、ほぼ釈文本の第4冊と第5冊に相当する。ただし釈文本第4冊末尾に「補遺」として掲載されていたTAM517とTAM99の2基については、対照本では第1冊に収録されたため、ここにはない。しかし釈文本の第2冊にあったTAM84については、唐代の墓誌（「唐年次未詳某相墓誌」）が出土したため、対照本ではこの第2冊の冒頭に配されている。このほか釈文本には収録されていなかったTAM504、TAMX2（Xの意味は不詳である）、およびTAM526の3基から出土した文書が新たに加えられた。

個別の文書では、釈文本第4冊所収のTAM103出土、2断片からなる「唐貞觀十八（六四四）西州高昌縣武城等郷戸口帳」（68TAM103:20/4, 20/5）を分割して、第1断片を「唐貞觀十八（六四四）年西州某郷戸口帳」、第2断片を「唐（年次未詳）西州高昌縣武城郷戸口帳」としたほか、以下のような改正点がある。釈文本第5冊所収のTAM337出土、「高昌延昌八（五六八）年寫《急就章》古注本」の整理番号60TAM337:11を60TAM337:11/1（一～七）とあらため、新たに60TAM337:11/1（八）を「高昌延昌八（五六八）年寫《急就章》古注本殘片」としている（ただし釈読はない）。同じく釈文本第5冊所収のTAM338出土、干支のみの「唐貞觀十八（六四四）年張阿趙買舍契」（60TAM338:14/5）は、「高昌甲辰歲張阿趙買舍契」にあらためられた。さらに同TAM117出土、「（年次未詳）某人買葡萄園契」（69TAM117:57/2）は、葡萄園の売買契約は唐西州時代には見られないという理由で、表題はそのままながら麹氏高昌国時代文書の最後に挿入された。

以上が主な改正点であり、いずれも文書研究の成果が生かされている。また対照本第1冊と同様、釈文本には収録されなかった多数の「文書殘片」の写真が掲載されているが、そのほとんどは釈読に多大な困難がともなうようである。しかしかかる断片は、剥離し析出することさえ、けっして容易ではなかったであろうから、この一点からも、王素氏をはじめ編集担当者の方々のご苦労が偲ばれる。

(關尾)

### ＊会員の研究成果（1994.8～1995.7）

#### ○荒川 正晴

- \* 「唐代コータン地域のu l a γについて—マザル＝ターク出土、u l a γ関係文書の分析を中心にして—」『龍谷史壇』第103・104号 1994年12月 17～38
- \* (再録) 龍谷大学史学会編『小田教授華甲記念史学論集』龍谷大学史学会 1994年12月 17～38
- \* (漢訳) 「唐代于闐的“烏駱”－以tagh麻扎出土有關文書的分析為中心－」『西域研究』19

95年第1期 1995年3月 66~76

- \* 「北庭都護府の輪台県と長行坊－アスター－ 506号墓出土、長行坊関係文書の検討を中心として－」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』小田義久先生還暦記念事業会 1995年7月 93~126
- \* 「書評：山田信夫著、小田壽典・P.ツィーメ・梅村坦・森安孝夫編『ウイグル文契約文書集成』I, II, III」『史学雑誌』第103編第8号 1994年8月 109~119

○片山 章雄

- \* 「高昌吉利錢について」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』（前出） 77~92
- \* （漢訳）「關于高昌吉利錢」『西域研究』1995年第1期（前出） 58~65
- \* 「風と砂のオアシス都市 楼蘭の遺跡－その歴史と現状－」『ラボの世界』第182号 1995年1月 6~7
- \* 「大論争を巻きおこした「さまよえる湖」ロプノールの真相」『Newton』第15巻第3号 1995年3月 72~73
- \* 「シルクロードの地理と歴史」『清泉文苑』第12号 1995年3月 19~21
- \* 「スウェン・ヘディンと大谷光瑞－交友初期の一齣－」『清泉文苑』第12号（前出） 49~51

○白須 淨眞

- \* 「上原芳太郎『外遊記稿』所収の「南船北馬」－その解説と録文－」『龍谷史壇』第103・104号（前出） 70~143
- \* （再録）龍谷大学史学会編『小田教授華甲記念史学論集』（前出） 70~143
- \* 「上原芳太郎『外遊記稿』について」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』（前出） 517~571

○關尾 史郎

- \* 「「高昌延壽元（六二四）年六月勾遠行馬價錢勅符」をめぐる諸問題」（上）『東洋史苑』第42・43号 1994年3月 62~82
- \* 「トゥルファン出土高昌国税制関係文書の基礎的研究－條記文書の古文書学的分析を中心として－」（七）『人文科学研究』（新潟大学人文学部）第86輯 1994年12月 1~26
- \* 「「高昌年次未詳入作人・畫師・主膠人等名籍」試釈」『龍谷史壇』第103・104号（前出） 1~16
- \* （再録）龍谷大学史学会編『小田教授華甲記念史学論集』（前出） 1~16
- \* 「「佃人文書」新探－「堰頭」の性格と職掌に関する予備的考察－」森田明編『中国水利史の研究－中国水利史研究会創立三十周年記念－』国書刊行会 1995年3月 163~186
- \* 「「冠帶之國」拾遺－突厥の衣冠制導入を中心として－」『環日本海研究年報』（新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室）第2号 1995年3月 117~128
- \* （大西康裕と共に著）「「西涼建初四年秀才對策文」に関する一考察」『東アジア－歴史と文化－』第4号 1995年3月 1~20
- \* 「論“作人”」『西域研究』1995年第1期（前出） 51~57
- \* 「高昌国「丁輸」考－アスター－ナ四八号墓出土高昌国役制関係文書の分析－」『小田義久博士還暦記念東洋史論集』（前出） 51~76
- \* 「内陸アジア（一）－1994年の歴史学界・回顧と展望－」『史学雑誌』第104編第5号 1995年5月 265~269

○町田 隆吉

- \* 「六～八世紀トゥルファン盆地の穀物生産－トゥルファン出土文書からみた農業生産の一側面－」『中国古代の国家と民衆』編集委員会編『堀敏一先生古稀記念 中国古代の国家と民衆』汲古書院 1995年3月 633～648
- \* 「中国前近代における民族と国家－「五胡十六国」・北朝史に関する教科書叙述を例に－」中村義編『新しい東アジア像の研究』三省堂 1995年7月 251～270 (以上)

＊『吐魯番出土文物研究会会報』(第102号～第106号)総目次

○第 102号, 1994年11月1日発行

- \* 第6回吐魯番出土文物研究会大会の記録  
活動報告  
発表要旨

山口 洋「吐魯番出土文書中の高昌郡関係文書」／荒川正晴「唐代ユータン地域の ular について－マザル＝ターク出土、ular 関係文書の分析を中心にして－」／片山章雄「高昌吉利錢について」／町田隆吉「6～8世紀のトゥルファン盆地の農業生産－トゥルファン出土文書からみた農業生産の一側面－」／白須淨眞「大谷探險隊に関する新たな資料の紹介－上原芳太郎の記録資料と上原が整理を試みた一群の資料について－」

○第 103号, 1995年2月1日発行

- \* 關尾史郎編「吐魯番出土文物關係論著目錄（稿）－1992・中文篇－」
- \* 關尾史郎「吐魯番出土漢文墓志索引稿（補遺）－吐魯番地区文管所「1986年新疆吐魯番阿斯塔那古墓群發掘簡報」について－」

○第 104号, 1995年5月1日発行

- \* 新著紹介  
吐魯番地区文管所（柳洪亮執筆）「1986年新疆吐魯番阿斯塔那古墓群發掘簡報」／王素「吐魯番出土張氏高昌時期文物三題」／孟憲實「關於麹氏高昌王朝地方制度的幾個問題」／王新民「麹氏高昌与鐵勒突厥的商業貿易」／王尚達「唐朝前期西北交通之經營」

○第 105号, 1995年7月1日発行

- \* 關尾史郎編「敦煌出土四～五世紀陶罐・陶鉢銘集成（Ⅲ）－附、敦煌、嘉峪關・酒泉陶罐・陶鉢出土古墓群一覽－」

○第 106号, 1995年8月1日発行

- \* 第7回吐魯番出土文物研究会大会のご案内
- \* 新著紹介Ⅱ  
侯燦「高昌建昌六年（560）麹惇墓表考補」／孟憲實「吐魯番出土張行倫墓志考讀」
- \*（關尾史郎）「【紹介】『吐魯番出土文書』図版釈文対照本・第2冊」
- \* 会員の研究成果（1994年8月～1995年7月）
- \*『吐魯番出土文物研究会会報』(第102号～第106号)総目次 (以上)

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川正晴方 TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)